

文教厚生常任委員会記録簿

会議日程	令和7年10月10日 9:23~10:35					
場所	瀬戸内町役場4階 議員控室					
出席委員	永井委員長	栄副委員長	泰山委員	里山委員		
欠席委員	柳谷委員					
説明のため出席した者の職氏名	仁科保健福祉課長補佐	津留介護福祉係長				
	林税務課長	與島収納係長				
付議事件	I. 所管事務調査「瀬戸内町の持続可能な介護に関する調査」について					
	(担当課聞取り) 1. 人材確保と担い手不足 2. 健康づくり・予防介護 3. 財政・介護保険特別会計（令和6年度見込みと実績値） 4. 地域特性とサービス提供体制 5. 先進地調査・視察に向けて					
担当職員名	宮原書記	委員長署名	永井 しづの			
会議の概要						
I. 介護保険料の収納状況（税務課）						
・令和6年度収納実績： 現年度分の調定額は約2億116万7,518円に対し、収納済額は2億62万410円で、収納率は99.73%と極めて高い。 調定額280万2,620円に対し、収入済額は65万4,834円で、収納率は23.37%である。 特別徴収（年金からの天引き）の割合が非常に高いことが、高収納率の要因となっている。 普通徴収（納付書払い）の収納率は95.48%で、未納者に対しては預金調査、職場調査、差し押さえ、電話・訪問督促を実施している。						
2. 介護保険事業の現状と見通し（保健福祉課）						
・給付費の実績と予測：令和6年度の給付費は当初12億円を見込んでいましたが、実際には11億円と、約1億円下回った。今後も11億～12億円程度で推移すると予測されていますが、若年世代の減少に伴い、将来的には保険料を上げざるを得ない状況にある。						
・基金の状況：現在、介護保険基金は約2億6,000万円あり、令和6年度の繰り越しを含めると3億円程度に達する見込み。第10期計画（令和9年度～）に向け、この基金を取り崩して保険料を抑制するか検討が行われる予定。						
・人材の現状：町内の介護従事者は約200名、令和6年度の離職率は6%（12名程度）であり、全国平均の12%に比べると低い状況。しかし、従事者の6割が40～50代以上であり、高齢化が進んでいる。						
・待遇改善：待遇改善加算は算定されていますが、個々の賃金への反映状況は事業所の判断に委ねられており、行政側で詳細を把握することは困難。						
3. 介護予防と地域活動						
・予防事業の効果：足腰笑顔教室などの予防教室には延べ2,000人弱が参加。体力測定を実施した33名のうち、約3分の2（23名）において維持・改善が見られた。						
・地域の居場所：町内には19のサロンがあり、農作業等を含む40のグループ活動（登録者計927名）が展開されている。3名以上（うち65歳以上が2名）いれば、サロンとして認可される条件となっている。						

会 議 の 概 要
<p>4. 委員との質疑応答（要旨）</p> <ul style="list-style-type: none">・保険料が高い要因：本町の保険料は県内ワースト5位程度と高額ですが、これは町内にサービスを受けられる施設が整っており、利用率が高いこと（サービスを利用しやすい環境にあること）が主な要因と分析されている。・利用者の動向：高額な「短期入所療養介護（リハビリ付き等）」を避け、より安価な「短期入所生活介護」へ移行するなど、利用者が費用面を考慮してサービスを選択する傾向が見られる。・施設定員の余裕：加計呂麻園（定員50名に対し40数名）や通所サービスなど、現状では定員に対して若干の余裕（空き）がある状況。・外国人雇用の現状：現在、2つの事業所で計4～5名の外国人労働者が就労しており、今後もWeb面談などを通じて増員を検討している事業所もある。 <p>5. 今後の調査計画</p> <ul style="list-style-type: none">・加計呂麻島内施設調査： 10月28日（火）～30日（木）の3日間で、加計呂麻園、古仁屋本島側の各施設を訪問し、現場の課題等を聞き取る計画を立てた。・施設側の負担を考慮し、事前に質問内容や工程表を送付した上で調整を行う。